事業報告

学童の健康を見守る

平成19年度 学童健診

（学校腎臓検診、学童心臓病検診、学童姿勢検診）

平成19年度における学童健診事業については、以下のとおりご報告いたします。

学校腎臓検診(学校検尿)

昭和48年の学校保健法施行規則改正後、広島市の委託を広島市医師会が受け、当検査センターが実施してまいりました学校検尿も、今年度で早くも34年目を迎えました。学校検尿の目的は、無症状の腎臓疾患や近年では糖尿病を早期発見・治療・管理することで、児童・生徒が適切な健康管理の下に学校で生活ができることを目指すものです。

当検査センターで集計したデータを基に、広島市医師会の学校検尿判定委員会で検査方法、精度、結果などの検討を行っています。本年度もこの検診で有意な疾患が見つかっています。

◇対象者：幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校の児童、生徒

◇受託エリア：広島市内4区(中区、南区、東区、西区)

単位：人

	1次受診者	1次陽性者※1	2次受診者	2次陽性者	3次受診者		3次陽性者※3
					4月～10月	11月～12月※2	
小学生	29,789 (100%)	571 (1.9%)	559 (1.9%)	275 (0.9%)	196 (0.7%)	10 (0.03%)	139 (0.5%)
中学生	11,473 (100%)	944 (8.2%)	852 (7.4%)	310 (2.7%)	182 (1.6%)	14 (0.12)	113 (1.0%)
全学童	41,262 (100%)	1,515 (3.7%)	1,411 (3.4%)	585 (1.4%)	378 (0.9%)	24 (0.06)	252 (0.6%)

※1：1次検査において、蛋白・尿糖が「3+」であった場合、直接専門医へ受診するよう勧奨しています。

※2：3次検査において、要受診者のうち未受診者に対して、再度受診を促す勧告を行うことで受診率が向上しています。

※3：管理区分については下表のとおりです。

単位：人

	3次陽性者	管理区分内訳					
		要入院・在宅医療(A)	運動不可(B)	軽度の運動可(C)	中度の運動可(D)	強度の運動可(E)	その他
小学生	139	0	1	2	4	121	11
中学生	113	0	0	0	14	77	22
全学童	252	0	1	2	18	198	33

小学生		中学生	
診断名	件数	診断名	件数
ネフローゼ症候群	1	無症候性血尿	1
腎炎疑い	2	無症候性蛋白尿	10
無症候性血尿	1	SLE	1
微少血尿	1	膀胱炎	1
IgA腎症	1	貧血症	1
無症候性血尿・尿路感染症疑い	1	-	-
計	7	計	14

今年度も3次検査陽性者の中から左表のような疾患疑いが発見されています。

学童心臓病検診(心電図)

学童心臓病検診は、学校における突然死を未然に防ぐことと、心疾患を有する子が適切な健康管理の下に学校で生活できることを目的としています。広島市医師会では学童の検査に有用とされている心音心電図検査を検診開始翌年から採用しています。さらに、偽陽性・偽陰性等の見逃しを少しでも無くすべく、スクリーニング検査の精度について年1回開催されている学童心臓病判定小委員会にて検討を重ね、年々精度向上に努めています。

◇対象者：幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童、生徒

◇受託エリア：広島市内5区(中区、南区、東区、西区、佐伯区)

単位：人

	学校検診受診者	要精検者(有所見者)	精検受診者
小学生	6,405 (100%)	255 (4.0%)	120 (1.9%)
中学生	5,380 (100%)	223 (4.1%)	110 (2.0%)
全学童	11,785 (100%)	478 (4.1%)	230 (2.0%)

※4：今年度の精密検査受診者から発見された所見

	精検診断結果	心電図・心音図所見	件数
小学生	ASD	不完全右脚ブロック	2
中学生	軽症PS	収縮期雑音	1
計			3

単位：人

	要精検者(有所見者)	精検受診者※4	精密検査対象者内訳					
			心電図・心音図		川崎病既往		先天性疾患・不整脈等	
			有所見者	精検受診者	有所見者	精検受診者	有所見者	精検受診者
小学生	255	120	122	87	82	10	51	23
中学生	223	110	149	94	42	8	32	8
全学童	478	230	271	181	124	18	83	31

学童姿勢検診

学校保健法により側弯症の早期発見が義務づけられ、学校医による前屈テストが実施されていますが、今なお多くの“見落とし”があるのが現状です。その要因として、学校医に整形外科医が少ないことや前屈テストへの理解度がまだ充分ではないことなどが考えられます。

そういった中、広島市医師会が行っている学童姿勢検診は、側弯症のみならず下肢長差やO脚などの早期発見といった整形外科的検診の役割も果たしています。

◇対象者：広島市立・三次市立小学校4～6年生および中学校1年生の男女

◇受託エリア：広島市内8区(中区、南区、東区、西区、佐伯区、安佐北区、安佐南区、安芸区)、三次市

単位：人

	実施人数	管理区分内訳		
		要受診※5	要注意	所見なし
全学童	1,504 (100%)	70 (6.7%)	203 (13.5%)	1,231 (81.8%)

※5：今年度までの精密検査受診者の中で、コブ角20°以上の要治療者内訳

角度	姿勢検診年度					
	平成16年度		平成17年度		平成18年度	
50°以上	1人	53° 中1	1人	50° 小4	0人	-
40°以上	3人	44° 小4	1人	46° 中1	0人	-
		43° 小6				
30°以上	3人	40° 中1	2人	37° 中1	2人	38° 小6
		39° 小6				
		34° 小4				
20°以上	1人	32° 中2	4人	28° 中2	2人	29° 小6
		34° 小6				
		27° 小4				
		26° 中1				

《レントゲン撮影による判断基準》

- 【Ⅰ】専門医の治療を要するもの：コブ角25°以上の側弯
- 【Ⅱ】専門医の定期的観察を要するもの：コブ角15°～24°の側弯
- 【Ⅲ】家庭や学校医による定期的観察を要するもの：コブ角10°～14°の側弯

『知っておきたい脊柱側弯症(日本側弯症学会編)』より抜粋